様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：１２６１３
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０１８５２

研究課題名（和文）「アジア・太平洋戦争史」の比較と総合：国際的研究教育プログラムの開発

研究課題名（英文）Developing an International Research and Education Program on Asia-Pacific War History: Comparison and Synthesis

研究代表者
中野　聡（Nakano, Satoshi）

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：００２２７８５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　29,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は近現代世界の戦争・暴力をめぐる問題群のなかに「アジア・太平洋戦争史」を位置づける比較・総合の観点に立った国際的・学際的な研究・教育プロジェクトの展開を目的として、（１）「比較アジア・太平洋戦争史」国際研究教育セミナーの開催、（２）英語ベースの「比較アジア・太平洋戦争史」資料・文献・教材集および実験授業パッケージの開発・実施、（３）若手研究協力者のプロジェクトへの参加を通じた育成の３事業を相互に関連させつつ実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　アジア・太平洋戦争史（アジアにおける第2次世界大戦史）を、大規模暴力とその記憶、真実と和解などの問題を焦点において広く国際比較の視点から研究し、またその研究成果を、多国籍の学生を対象とする国際教育の場に還元すること、そのプロセスを通じて日本だけでなく世界の若手研究者を育成することを目的とした。
　このプロジェクトを展開することによって、大規模暴力の原因や、戦争犠牲をめぐる記憶の政治学などをめぐり、最先端の研究成果を共有して歴史教育に還元していくための国際的なモデルづくりと教育研究ネットワークの形成が実現した。

研究成果の概要（英文）：This project aims to develop international and multi-disciplinary research and education program on “the Asia-Pacific War” from the perspectives to compare and synthesize the subject as a major incident in the global history of war and violence. Major achievements: (1) holding series of international research and education seminars under the title of “Asia Pacific War: History, Comparison, and Synthesis”; (2) compilation, translation, and publication of important historical documents relating to Asia-Pacific War in English for the use of undergraduate / graduate classes and development of a sample graduate/ undergraduate coursework in English; and (3) recruiting young scholars joining the project and training them. Through these activities this project attempt to make better known the Asia-Pacific War studies in Japan internationally and to prepare a new dimension in the Asia-Pacific War studies with the next generation research scholars.

研究分野：史学・地域研究

キーワード：総合人文社会　地域研究　地域間比較研究　アジア・太平洋戦争　日本史

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

近年の日本における「アジア・太平洋戦争史」は、1990 年代以来の共同研究の蓄積が開花し、また新史料の発見・利用に基づく実証研究の成果が多数発表・刊行されてきたその一方、日本における「アジア・太平洋戦争史」の研究教育には国際的発信力の弱さ、比較史の視点の弱さという相互に関連する重大な課題が残されている。とくに 2 点の課題が指摘できる。

（１）「アジア・太平洋戦争史」は近現代世界において繰り返されてきた戦争・暴力をめぐる諸問題に対してきわめて有効な知見を提供し得るにもかかわらず、海外・異分野に対する研究成果の発信と交流が十分とは言い難い。またそれゆえに「アジア・太平洋戦争史」は一般に比較史の視点が弱く、近現代世界の大規模暴力に共通する「真実と和解」をめぐる問題群――発生の原因・構造、法的正義、被害者・加害者の「心の傷」、博物館・メモリアルなど公的記憶の構築、歴史和解の制度化の有無など――のなかで「アジア太平洋戦争史」を考究する視点が十分に構築できていない。

（２）グローバリゼーションの一方でナショナリズムのぶつかり合いが深刻化している東アジア国際関係において「歴史摩擦」は大きな争点となっている。その一方、過去 10 年のあいだに日本でも飛躍的に進んだ大学・大学院の国際化（在学生の多国籍化）に「アジア・太平洋戦争史」は、研究教育分野として十分に対応しきれていない。国際化した学びの場としての大学・大学院は、国際社会で活動する市民に必要とされる「あたりまえの教養」として「アジア・太平洋戦争史」を共有するコモングラウンドを回復する貴重な場となり得るはずである。

２．研究の目的

以上の観点から、本研究は、日本で優れた研究を蓄積してきた「アジア・太平洋戦争史」を研究・教育の両面で国際化し、近現代の戦争・暴力をめぐる問題群のなかに位置づける比較史の観点を強化するとともに、国際化した多国籍の学生が学ぶ場としての内外の大学・大学院で、専攻や国籍を超えて「アジア・太平洋戦争史」を「あたりまえの教養」として共有できる教材・シラバスの開発を目的として設定した。

３．研究の方法

本研究は比較・総合の観点に立つ「アジア・太平洋戦争史」の国際的・学際的研究・教育プロジェクトの展開を目的として、下記 3 事業を相互に関連させつつ実施した。

(1) 国際研究教育セミナーの開催
(2) 英語ベースの資料・文献・教材集および実験事業の開発・実施
(3) プロジェクト参加を通じた若手研究協力者育成

４．研究成果

研究初年度の平成 27 年度は、まず上記（研究の方法、以下同）（１）に関連して、第１回セミナー（テーマ：大戦終結 70 年）を 2015 年 8 月 11 日（東京、一橋大学）、第２回セミナー（戦争の記憶・若手研究者発表）を 2016 年 3 月 5 日および 6 日（マニラ、アテネオ・デ・マニラ大学）、第３回（戦史叢書英訳プロジェクト）・４回（戦争の記憶・若手研究者発表）セミナーを 2016 年 3 月 25 日および 26 日（東京、一橋大学）で実施した。また（２）に関連して、アジア・太平洋戦争史に関する代表的な史資料の英訳状況を調査検討した。さらに一橋大学において授業科目として Topics of Modern and Contemporary History（現代史特論）を開講した。さらに（３）に関連して、上記の事業を遂行する若手研究協力者３名を雇用し、このうち博士学位取得者の中村江里氏および清水由希江氏を年度後半において科学研究費研究員として採用、主として中村氏には英訳事業、清水氏には研究会議の企画運営および授業パッケージの開発に協力してもらった。

研究２年目となる平成 28 年度は、まず上記（１）に関連して、2017 年 3 月 4-5 日に第 5 回セミナー「岐路に立つグローバリゼーションと歴史実践」を実施した。また（２）に関連して、前年度に一橋大学で行った授業(Topics of Modern and Contemporary History「現代史特論」)の成果を踏まえ、新たな内容を追加し前期に科研費研究員の清水由希江氏の担当で開講した。さらに、前年度に英訳を進めたアジア・太平洋戦争史に関する代表的な史資料を用いる授業を後期に開講した。また、2016 年 7 月 21 日・8 月 4-5 日の 3 日間に実験的なサマースクールを実施し、フィールドワーク用の資料の英訳を行った。教材作成目的で濱谷正晴一橋大学名誉教授が進めている被爆者調査資料アーカイブのデジタル化も推進した。（３）においては、一橋大学ジュニアフェローの中村江里氏を研究分担者とし、科学研究費研究員として清水氏に若手研究者を講師として招聘したサマースクールの企画運営、根本雅也氏に研究会議の企画運営において協力してもらった。

平成 29 年度は、上記(1)に関連して、2017 年 12 月 2 日に第 6 回セミナー「「ラッセル法廷」50 周年」を実施した。また、2018 年 3 月 2-3 日にパリ(フランス)の EHESS 社会科学高等研究院にて EHESS-日仏財団との共催で European Perspectives on World War II in Asia Pacific War

を開催し、Ann-Sophie Schoepfel 氏(Sciences Po Paris)と Henning Fauser 氏（Institut d'etudes politiques de Rennes)による研究報告を行った。続いて 2018 年 3 月 10-11 日に一橋大学にて Asian Experiences of World War II in the Asia-Pacific を開催し、Kelly Maddox 氏(一橋大学－大和スコラー)、Iris Haukamp 氏(東京外国語大学)による研究報告を行った。また(2)に関連して、実験授業を継続して複数開講するなどして、授業の開発・研究を進め、根本雅也氏（立命館大学－日本学術振興会ＰD）と佐藤雅也氏（東京大学）に授業担当を依頼した。2017 年 7 月 30 日・8 月 1 日にサマーセミナーを実施した。史資料の英語翻訳も継続して行った。

最終年となる平成 30 年度は、(1) フィリピンと日本の戦後和解の取り組みをテーマに 2018 年 6 月 9 日に一橋大学にて、第 7 回研究会議／シンポジウム「先の戦争に学ぶ、歩むべき平和への道」を実施した。また、国際ワークショップとして 2018 年 7 月 28 日に東京大学にて Resituating Asia-Pacific War in a Global Context:New Researches by Young Scholars and Round Table Discussion（東京：東京大学）を開催し、ヨーロッパと日本の若手研究者による研究交流を行った。さらに、2018 年 9 月 28 日に福岡国際会議場で行われた第 4 回世界社会科学フォーラム（WSSF2018）にて、Reconsideration of the Welfare State in the light of Hibakusha と題したパネルセッションを共催した。 (2) 実験授業を継続して複数開講し、授業の開発・研究を進めた。実験授業の一つでは、上記 7 月の国際ワークショップに参加した日本、イギリス、フランス、ドイツからの若手研究者にもレクチャーを依頼し、オムニバス授業による 5 日間の集中講義コースを実施した。(3)上記の事業を通じて、ポスドクを中心として国内、アジア、ヨーロッパを拠点とする多様な若手研究者のプロジェクトへの参加を促し、前年度までに築いた研究ネットワークを強化・拡大することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 68 件）

1. 岡田泰平、性暴力と裁判、細谷広美・佐藤義明編『グローバル化する〈正義〉の人類学: 国際社会における法形成とローカリティ』（昭和堂）（図書所収論文）、査読なし、2019、85-109
2. 中野聡、アジア主義：記憶と経験、現代思想、査読なし、46 巻 9 号、2018、134-149
3. 中野聡、ラッセル法廷から半世紀 ― 世界は正義といかに向かい合ってきたか（特集 民衆法廷運動の軌跡と現在―「ラッセル法廷」を中心に)、歴史評論、査読なし、823 号、2018、6-14
4. 藤本博、ラッセル法廷と国際反戦運動の胎動 ―「ベトナムにおける戦争犯罪調査日本委員会」と民族的抵抗への共感を中心に、歴史評論、査読なし、823 号、2018、15-28
5. 戸谷由麻、東京裁判の個人責任論、歴史評論、査読なし、823 号、2018、29-41
6. 前田朗、民衆法廷を継承する精神―原発民衆法廷の経験を手掛かりに、歴史評論、査読なし、823 号、2018、42-56
7. 芝健介、ニュルンベルク裁判とラッセル法廷、歴史評論、査読なし、823 号、2018、57-70
8. NAKANO Satoshi、Methods to Avoid Speaking the Unspeakable: Carmen Guerrero Nakpil, the Death of Manila, and Post-World War II Filipino Memory and Mourning、Hitotsubashi Journal of Social Studies、査読なし、48 巻、2017、27-41
9. 中野聡、歴史修正主義とその背景、歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題　第 4 次-3』績文堂（図書所収論文）、査読なし、2017、2-16
10. 岡田泰平、戦争／平和と生存、歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題　第 4 次-1』績文堂（図書所収論文）、査読なし、2017、287-303
11. 岡田泰平、日本軍「慰安婦」制度と性暴力、上野千鶴子・蘭信三・平井和子編『戦争と性暴力の比較史へ向けて』岩波書店（図書所収論文）、査読なし、2017、85-109
12. 岡田泰平、占領地日本のセックス・ワーカーについて、日比野啓・下河辺美知子編著『アメリカン・レイバー』彩流社（図書所収論文）、査読なし、2017、65-89
13. 岡田泰平、植民地大学について：研究史からの試論（特集　植民地帝国と「大学」)、史潮、81 号、2017、78-89
14. 岡田泰平、「記憶の政治」研究を振りかえる：ピエール・ノラ編『記憶の場』日本語版の受容を中心に（特集　越境する戦争の記憶)、歴史評論、査読なし、808 号、2017、5-22
15. OKADA Taihei、Book Review: Rick Baldoz. The Third Asiatic Invasion: Empire and Migration in Filipino America,1898-1946、Philippine Studies、査読なし、Vol.85 no.3、2017、387-390
16. 石居人也、生・病・死、生存の歴史学、東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために: 現在をどう生きるか』岩波書店（図書所収論文）、査読なし、2017、303-320
17. 中村江里、総力戦と日本の軍事精神医療、年報日本現代史、査読なし、22 号、2017、139-174
18. NAKAMURA Eri、'Invisible' War Trauma in Japan: Medicine, Society and Military Psychiatric Casualties, Historia Scientiarum、 査読有、Vol.25 No.2、2016、140-160
19. 中野聡、戦争の記憶と忘却、大野拓司・鈴木伸隆・日下渉編著『フィリピンを知るための 64 章』明石書店（図書所収論文）、査読なし、2016、124-128
20. 岡田泰平、環太平洋帝国アメリカにおける統治権力と移動の権利：フィリピン系住民のハ

ワイ市民権認定を事例として、アメリカ研究、査読なし、50 号、2016、1-19
21. 後藤基行、中村江里、前田克美、戦時精神医療体制における傷痍軍人武蔵療養所と戦後病院精神医学 ： 診療録に見る患者の実像と生活療法に与えた影響、社会事業史研究、査読なし、50 号、2016、143-159
22. 中村江里、敗戦と「男らしさ」の危機：戦争と生の独特的・科学的言説と男性性の再編成、歴史評論、査読なし、796 号、2016、31-46
23. 中村江里、戦争と精神疾患の「公務起因」をめぐる政治 ： 日本陸軍における戦争神経症と傷病恩給に関する考察を中心に、精神医学史研究、査読なし、20 号、2016、37-41
24. 中野聡、戦没者追悼・慰霊、東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』岩波書店（図書所収論文）、査読なし、2015、248-253
25. 中村江里、15 年戦争期の傷痍軍人援護と精神神経疾患：総力戦下における保護と排除のポリティクス、人民の歴史学、査読なし、206 号、2015、27-38

〔学会発表〕（計 66 件）
1. Dupuy, Jean-Pierre、Welfare Economics Confronts Extreme Events、World Social Science Forum: Reconsideration of the Welfare State in the light of Hibakusha (OP3-02)（国際学会）、2018 年
2. MIYAJI Naoko、Secret and Lies、同上
3. Dumouchel, Paul、Catastrophe and Justice --Burte Luck, Desert, and Inequality--、同上
4. NEMOTO Masaya、Outrage for Peace: Questionnaire Study on Hibakusha ’ s Thoughts and Experiences、同上
5. GOTOH Reiko、State compensation for atomic bomb sufferers and Call for the total abolishment of nuclear weapons、同上
6. NEMOTO Masaya、The Effects of Construction of Aggressors and Victims: Storytelling Activities of Atomic Bomb Survivors in Hiroshima、The 2018 AAS Conference（国際学会）、2018 年
7. Fauser, Henning、Can Hiroshima be compared to Auschwitz? French Holocaust survivors' point of views、Resituating Asia-Pacific War in a Global Context New Researches by Young Scholars and Round Table Discussion、2018 年
8. Levidis, Andrew、After February 26, 1936: Prince Konoe Fumimaro and the Imperial Way Faction、同上
9. Schoepfel, Ann-Sophie、The International Military Tribunal for the Far East, France and the Issue of Decolonization、同上
10. Baxter, Joshua、‘ Total Violence ’ : Theorizing the Uses and Function of Violence on the Home Front、同上
11. Schoepfel, Ann-Sophie、Judges, Victims, Defense Counsel & Defendants: Transversal Perspectives on the Asia-Pacific War、Asia-Pacific War History: Comparison and Synthesis (6): European perspectives on World War II in Asia Pacific、2018 年
12. Schoepfel, Ann-Sophie、Legal Flows and Decolonization: the French Prosecution of Japanese War Crimes at the Tokyo and Saigon Military Tribunals、同上
13. Fauser, Henning、Studying Transnational Perception: A Conceptual Framework：The Example of the Perception of Germany and the Germans by French Concentration Camp Survivors、同上
14. Fauser, Henning、Hiroshima and Nagasaki as ‘ Realms of Memory ’ in the discourses of French concentration camp survivors、同上
15. Takenaka, Akiko、Yasukuni Shrine: History, Memory, and Japan's Unending Postwar、Asia-Pacific War History: Comparison and Synthesis (7):Asian Experiences of World War II in the Asia-Pacific、2018 年
16. Maddox, Kelly、Explaining Atrocities in the Asia-Pacific War: Insights from Genocide and Mass Violence Studies、同上
17. Hawkamp, Iris、Coming to Terms with the Past: Writing Film History and the Complication of boundaries、同上
18. Cheng Chua, Karl Ian U.、 Re-thinking the Comfort Women Issue: A Case Study of the Maria Rosa Henson Collection、同上
19. Mark, Ethan、Where is WWII?: Narrating a Global Conflict Globally、Asia-Pacific War History: Comparison and Synthesis (5): Practicing History at the Time of Crisis in the Globalization Consensus、2017 年
20. Yang, Daqing、Joint Historians ’ Commissions and Negotiating ‘ History beyond Boarders ’ 、 同上
21. Jose, Ricardo T.、Refighting the Battle of Bataan: Contesting Memories and Interpretations of the 1941-1942 Philippine Defense Campaign、同上
22. Shimizu, Sayuri Gunther、A Reflection of a Parent-Teacher-Historian: Historicizing

the Asia-Pacific War in the New Millennium United States、同上
23. Prescott, Ann、American Teachers: Listening to and Learning from the Voices of the Other、同上
24. 加藤圭木、日本軍「慰安婦」問題を大学でどう教えるか、同上
25. 斎藤一晴、歴史対話としての日韓・日中授業交流、同上
26. Saito, Hiro、Social Science as a Reflexive Dialogue between Perpetrators and Victims、同上
27. 兼清順子、戦争をめぐる多様な視点の交差点としての博物館、同上
28. Cheng Chua, Karl Ian U.、Forgetting through Remembering: World War II Memorials and Tourism、同上
29. Ma, Xiaohua、Exhibiting World War II in China and Japan: War Memory, Nation Building, and Conflicts in East Asia、同上
30. NAKANO Satoshi、Overcome by Nationalism：Japanese Occupation of Southeast Asia (1942-1945) as Remembered by the Occupiers、International Conference on the 75th Anniversary of World war II in the Philippines（招待講演）(国際学会)、2017年
31. OKADA Taihei、Sexual Violence in Cebu Towns and Its Place in Historical Memory、Consortium for Southeast Asian Studies in Asia: SEASIA 2017、2017年
32. NEMOTO Masaya、Remaking Hiroshima and Nagasaki: Commemoration of Atomic Bombings in the U.S.、AAS-in-Asia Conference 2017（国際学会)、2017年
33. 藤本博、「ラッセル法廷」が問いかけたこと–ヴェトナムでの米国の戦争犯罪に対する国際的批判と日本における戦犯調査活動の貢献、シンポジウム「ラッセル法廷」50周年（本科研主催)、2017年
34. 戸谷由麻、東京裁判における通例の戦争犯罪の追及：法廷における争点とその意義、同上
35. 前田朗、民衆法廷を継承する精神―アフガニスタン及びイラク国際戦犯民衆法廷の経験、同上
36. NAKAMURA Eri、Psychiatrists as Guardians of War Finance: Distribution of Military Pensions during and after the Asia-Pacific War、AAS-in-Asia Conference 2017（国際学会)、2017年
37. NAKANO Satoshi、Forgiveness Should be Accompanied by Remembrance: War Memories and the Postwar Philippines-Japan Relations、A Seminar on the Legacy of Elpidio Quirino, Sixth President of the Republic of the Philippines（招待講演)、2016年
38. NAKANO Satoshi、Memorare Manila and the Protest against Forgetting, 1995-2016、Asia-Pacific War History: Comparison and Synthesis (2): Joint Workshop on the Asia Pacific War--Global History Education and Postwar Memories、2016年
39. NAKANO Satoshi、”Who liberated whom?: an attempt of alternative questions and interpretations on the Japanese Occupation of Southeast Asia、同上
40. Kim Hyun Shin、Conflict of War Memories in South Korea: From the Korean War to the Asia Pacific War、同上
41. HONJO Toki、War Memories in Hokkaido and Movement to “Dig Up” People’s History、同上
42. SASAKI Kei、Ibaraki in the Era of “Memories”、 同上
43. De Viana, Augusto V.、The Japanese Community in Manila, Its Rise and Fall and the Changing Filipino Perceptions about Japan (1900-1946)、同上
44. Remmelink, Willem、The importance of looking over the hill into the camp of the former enemy、Asia-Pacific War History: Comparison and Synthesis (3): Tackling the Language of the Warriors、2016年
45. Yang, Daqing、Friendship or Hatred: Changing Chinese Attitudes toward Japan and Memories of WWII、Asia-Pacific War History: Comparison and Synthesis (4): Tackling the Narratives of the War: Examining the representations and misrepresentations in the Asia-Pacific War history、2016年
46. Jose, Ricardo T.、National and Local World War II Commemorations in the Philippines: An Introductory Study、同上
47. Cheng Chua, Karl Ian U.、Arguments from the Outside: Memory of world War II from Children’s Literature in the Philippines、同上
48. Campoamor II, Gonzalo、Pan-Asianism and Miki Kiyoshi’s Idea of the Pilipino Oriental、同上
49. OKADA Taihei、The Visayas Kempeitai: Its Crimes and Postwar Silence、同上
50. SHIMIZU Yukie、A Study on the Influence of James’ Pacifism: the Collective Research on Political Conversions in Japanese Post-war Period、Second European Pragmatism Conference (section 4. social and political sciences)、2015年
51. 中村江里、「白衣の勇士」か「疾患への逃避」か？―総力戦と精神神経疾患をめぐるポリティクス、東京歴史科学研究会第49回大会、2015年
52. 中村江里、軍事医学史とアーカイブズ・情報公開―旧日本陸軍病院病床日誌の事例から―、

日本アーカイブズ学会 2015 年度大会、2015 年
53. 中村江里、戦争と精神疾患の「公務起因」をめぐる政治―日本陸軍における戦争神経症と傷病恩給に関する考察を中心に―、第 19 回日本精神医学史学会、2015 年

〔図書〕（計 13 件）
1. NAKANO Satoshi、Japan's Colonial Moment in Southeast Asia, 1942-1945: the Occupiers' experience、Routledge、2018、286 頁
2. 根本雅也、ヒロシマ・パラドクス、勉誠出版、2018、288 頁
3. 中村江里、戦争とトラウマ、吉川弘文館、2017、336 頁
4. 中村江里、精神障害兵士「病床日誌」：資料集成第 3 巻（新発田陸軍病院編）、六花出版、2017、176 頁
5. 吉田裕、日本軍兵士―アジア・太平洋戦争の現実、中央公論新社、2017、248 頁

〔その他〕
https://apwarproject.wordpress.com/

６．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：岡田　泰平
ローマ字氏名：(OKADA, Taihei)
所属研究機関名：東京大学
部局名：大学院総合文化研究科
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：70585190

研究分担者氏名：石居　人也
ローマ字氏名：(ISHII, Hitonari)
所属研究機関名：一橋大学
部局名：大学院社会学研究科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：20635776

研究分担者氏名：中村　江里
ローマ字氏名：(NAKAMURA, Eri)
所属研究機関名：慶應義塾大学
部局名：経済学部（日吉）
職名：特別研究員（PD）
研究者番号（8 桁）：20773451

研究分担者氏名：足羽　與志子
ローマ字氏名：(ASHIWA, Yoshiko)
所属研究機関名：一橋大学
部局名：大学院社会学研究科
職名：教授
研究者番号（8 桁）：30231111

研究分担者氏名：吉田　裕
ローマ字氏名：(YOSHIDA, Yutaka)
所属研究機関名：一橋大学
部局名：大学院社会学研究科
職名：特任教授
研究者番号（8 桁）：20166979

(2)研究協力者

研究協力者氏名：楊　大慶
ローマ字氏名：(YANG, Daqing)

研究協力者氏名：宮地　尚子
ローマ字氏名：(MIYAJI, Naoko)

研究協力者氏名：藤本　博
ローマ字氏名：(FUJIMOTO, Hiroshi)

研究協力者氏名：戸谷　由麻
ローマ字氏名：(TOTANI, Yuma)

研究協力者氏名：前田　朗
ローマ字氏名：(MAEDA, Akira)

研究協力者氏名：芝　健介
ローマ字氏名：(SHIBA, Kensuke)

研究協力者氏名：佐藤　雅哉
ローマ字氏名：(SATO, Masaya)

研究協力者氏名：本庄　十喜
ローマ字氏名：(HONJO, Toki)

研究協力者氏名：佐々木　啓
ローマ字氏名：(SASAKI, Kei)

研究協力者氏名：清水　由希江
ローマ字氏名：(SHIMIZU, Yukie)

研究協力者氏名：加藤　圭木
ローマ字氏名：(KATO, Keiki)

研究協力者氏名：斎藤　一晴
ローマ字氏名：(SAITO, Kazuharu)

研究協力者氏名：兼清　順子
ローマ字氏名：(KANEKIYO, Junko)

研究協力者氏名：馬　暁華
ローマ字氏名：(MA, Xiaohua)

研究協力者氏名：根本　雅也
ローマ字氏名：(NEMOTO, Masaya)

研究協力者氏名：後藤　玲子
ローマ字氏名：(GOTOH, Reiko)

研究協力者氏名：KIM, Hyun Shin
ローマ字氏名：(KIM, Hyun Shin)

研究協力者氏名：DE VIANA, Augusto V.
ローマ字氏名：(DE VIANA, Augusto V.)

研究協力者氏名：REMMELINK, Willem
ローマ字氏名：(REMMELINK, Willem)

研究協力者氏名：JOSE, Ricardo T.
ローマ字氏名：(JOSE, Ricardo T.)

研究協力者氏名：CHENG CHUA, Karl Ian U.
ローマ字氏名：(CHENG CHUA, Karl Ian U.)

研究協力者氏名：CAMPOAMOR II, Gonzalo
ローマ字氏名：(CAMPOAMOR II, Gonzalo)

研究協力者氏名：MARK, Ethan
ローマ字氏名：(MARK, Ethan)

研究協力者氏名：PRESCOTT, Ann
ローマ字氏名：(PRESCOTT, Ann)

研究協力者氏名：SAITO, Hiro
ローマ字氏名：(SAITO, Hiro)

研究協力者氏名：SCHOEPFEL, Ann-Sophie
ローマ字氏名：(SCHOEPFEL, Ann-Sophie)

研究協力者氏名：FAUSER, Henning
ローマ字氏名：(FAUSER, Henning)

研究協力者氏名：TAKENAKA, Akiko
ローマ字氏名：(TAKENAKA, Akiko)

研究協力者氏名：MADDOX, Kelly
ローマ字氏名：(MADDOX, Kelly)

研究協力者氏名：HAWKAMP, Iris
ローマ字氏名：(HAWKAMP, Iris)

研究協力者氏名：LEVIDIS, Andrew
ローマ字氏名：(LEVIDIS, Andrew)

研究協力者氏名：BAXTER, Joshua
ローマ字氏名：(BAXTER, Joshua)

研究協力者氏名：DUPUY, Jean-Pierre
ローマ字氏名：(DUPUY, Jean-Pierre)

研究協力者氏名：DUMOUCHEL, Paul
ローマ字氏名：(DUMOUCHEL, Paul)

研究協力者氏名：SHIMIZU, Sayuri Gunther
ローマ字氏名：(SHIMIZU, Sayuri Gunther)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。